

図書館友の会 ニュース

2021年
4月号

No. 19

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

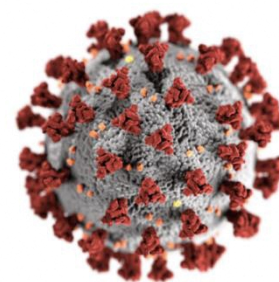
図書館友の会 総会 & 講演会 6月4日(金)に開催

場 所 岸和田市立図書館(本館)3階視聴覚室 ☎072-422-2142

◇「友の会」総会 午後1時～1時45分

- ① 2020年度 事業報告及び決算報告
- ② 2021年度 事業計画(案)及び予算(案)

◇ 講演会 午後2時～3時30分



新型コロナウイルス変異株とワクチン接種の有効性

講師：杉原富人（図書館友の会副会長）

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)

会員でない方もぜひご参加ください（参加費無料）

ワクチン接種によって新型コロナウイルスは「克服」できるのか？ このウイルスの変異株にも効果があるのか？ ワクチン接種は、変異株が引き起こすと予想されている感染「第4波」を予防できるのか？ これらの問題について、現時点での新型コロナウイルス変異株の特徴とファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社が開発したワクチンの有効性に関するポイントを整理して話題提供します。「友の会」会員でない方も参加できます。



歴史カフェ「南北朝期の久米田寺」 2021 ブックフェスタ

日時 6月19日(土)14:00～16:30

場所 岸和田市立八木市民センター(2F)講座室1

カタリスト 杉原富人(岸和田市図書館友の会副会長)

南北朝時代(1337年～1392年)、久米田寺は南朝・北朝(足利幕府)の両朝に対してあくまでも中立的立場を堅持しました。このことが、久米田寺に貴重な文書(国の重要文化財に指定)が残されることにつながったのではないかなど、話題提供します。

『図書館から岸和田ルネサンス』について、皆さんから寄せられた感想を2～3面に掲載しています。また、各号で紹介した図書などを4面に掲載しましたので、ぜひ皆さんも、これらの図書も借りて読んでみませんか。

『図書館から岸和田ルネサンス』

皆さんから感想が寄せられました。

◇ むづかしい問題もわかりやすく学ぶことしきりです

「友の会ニュース」の毎号を楽しみに読んでいます。中でも『図書館から岸和田ルネサンス』の記事はグイグイとそのテーマに引き込まれます。その切り口はウイルス、細菌、免疫等自然科学分野から、感染症の歴史や文明、そしてヒト社会のあり方…、極めつけは「マネー資本主義」と「里山資本主義」に及び、「もののけ姫」やブータン国のお話もまじえつつ、むづかしい問題もわかりやすく学ぶことしきりです。

先日テレビで「中世の疫病ーペスト」を見ました。14世紀、モンゴルに発症したペスト。折しもアレクサンダー大王の侵略遠征により、中央アジアから中国を経て、ヨーロッパ全域に及ぶ感染ルートで、半世紀にわたり猛威をふるい、おびただしい死者数だったと…。科学の未発達時代故に、その影響は18世紀に及んだとのこと。時代は違っても、グローバル化した現代社会で新型コロナウイルスの地球制覇はまたたく間でした。

人類の歴史も感染症との闘いの連続です。裏返せばウイルスや細菌も変異を繰り返し闘っているのです。まさに今、コロナウイルスの変異種が出現したように…。地球は生きとし生けるもの、生物すべての共有の星なのです。

『ルネサンス』第5号の中の「自然（地球）は人間によって支配（コントロール）できるという幻想を抱き…」との記述に、私も強く共感します。

地球温暖化に伴う気候変動や自然災害の多発、そして新型コロナウイルスによる終息の見えない感染爆発。すべては人間自らがその要因をつくったことに今、気づきの時を与えられたのかもしれない。
(中川 美智子)

◇ 「本って素晴らしい。読んでみたい！」と刺激を受けました。

コロナ禍の中で一人暮らしの高齢の私は、とにかくフレイル予防のために工夫した生活を送らないといけないと思って暮らしています。

※フレイルとは、健常から要介護へ移行する中間の段階。身体だけでなく、認知症やうつなどの精神・心理的な問題、独居や経済的困窮などの社会的問題が含まれる多面的な概念です。

今までの、近くのグラウンドで4人の仲間との早朝体操に加えて、「頭も大事や」と、NHKのEテレの『100分で名著』を見たところ、ブルデューが『ディスタンクシオン』の中で100年前のスペイン風邪の当時の様子を書いていたことが紹介されました。コロナ禍のこの時期にマトを得たテーマだなと思い、この番組にハマってしまいました。

そして、図書館友の会から『図書館から岸和田ルネサンス』が届きました。ウイルスや細菌との共生の話にはじまって、コロナ禍の中で私が日頃から知りたいと思っていた内容や本の紹介、解説が書かれています。「本って素晴らしい。読んでみたい！」と刺激を受けました。

でも、まだ1冊も読んでいないのですが…。読みたい本のリストが一杯になってしまいました。『岸和田ルネサンス』では、興味をひくように上手に解説され、様々な本へと導いてくれます。私にとっては、まさに目から鱗です。

こんな素晴らしい『岸和田ルネサンス』を仲間と勉強できたら楽しい充実した日々が送れるだろうなと思い、木村さんと相談して、私が所属する「年金者組合」で学習会を3回開きました。楽しかったですよ。

文化や本は「心の栄養」です。コロナ禍をチャンスとして生活を見つめ直す機会にしたいと思っています。
(林堂 知津子)

文章教室が、公開講座を開催しました。

「上手い下手ではなく何でも書こう」という呼びかけにこたえ、2月20日に開催した『文章教室公開講座』には10名の方が参加。「3密」を避けるため窓を開け放し、1時～2時、2時～3時、3時～4時と3班に分けて開催しました。教室生の作品について、倉橋先生がそれぞれの文章に関連する文学作品の紹介など、ユーモアを交えてご指導くださいました。応募者の手元にも、教室生の作品をコピーし配布しましたので、適宜質問等もあって4時30分にアンケートを実施し終了しました。アンケートでは「講師の倉橋健一先生のアドバイスが素晴らしかった」「ふだん文章を書くことがないから参加してみた」「文章を書けるようになりたい」「文章を書くことが苦手で克服したい」等の感想が寄せられました。



地名の秘密

⑰ 幸福町

幸せと、なんの関係もない幸福駅

昭和45年(1970)代、今では遠い昭和の昔になるが、北海道の旧国鉄広尾線に「幸福駅」という駅があり、縁起のよい駅名として、この駅の入場券が人気を集めた。

年配の人なら覚えている人もおられると思う。正式な町名は北海道帯広市幸福町という。もともと当地は「幸震(さつない)」と表記されて、この一帯は古くから「サツナイ」と呼ばれた。アイヌ語で「サツ」は「幸」、「ナイ」は古語で地震の事を「ないふる」と呼んで「震」の字を宛てたとされる。「幸震(さつない)」はアイヌ語で「乾いた川」を意味する。帯広市街東側を流れる大きな川サツナイから来た地名。普通は「札内」の字があてられている。帯広でも、川の名前として札内川と表示してある。

北海道の開拓時代には、内地で志を得なかった知識人が随分来ていたせいも、この種の風流な地名がよくある。

一般の人には迷惑で、「これでは読めやしない。この地名を音読みに替えて「こうしん」と呼ぶようになった。大正4年(1915)幸震村が他の2つの村と合併して大正村となり、昭和32年(1957)に帯広市に編入された。そして昭和38年、大正村は「幸福町」と改称された。

その「幸」は幸震からとったものだが、では「福」というと、それは明治30年代に極寒の未踏の荒野を開拓した福井県出身5世帯の貧農の家族入植者により開発されたところだったので、出身地福井県の県名「福」を一字とり、「幸福」という地名が誕生したのである。

* 参考資料 日本全国・地名の秘密。日本地名研究所通信第98号

【文責】 文章教室 浦田榮二

『図書館から岸和田ルネサンス』各号で紹介した図書や資料

第1号 ウイルス、細菌と「共生」

- ◇『ウイルスは生きている』（中屋敷均著 講談社現代新書）
- ◇『免疫力を強くする』（宮坂昌之著 講談社ブルーバックス）
- ◇『共生の生態学』（栗原康著 岩波新書）、
- ◇『抗生物質と人間』（山本太郎著 岩波新書）

第2号 感染症と「ヒト社会」のあり方

- ◇『感染症と文明』、◇『抗生物質と人間』（いずれも山本太郎著 岩波新書）
- ◇雑誌「中央公論」（山本太郎寄稿 2020年4月号）、◇毎日新聞（山極寿一寄稿 4月28日朝刊）
- ◇『感染症対人類の世界史』（池上彰・増田ユリア著・対談 ポプラ新書）

第3号 免疫学を学んでみましょう。

- ◇『新しい免疫入門：自然免疫から自然炎症迄』（審良静男・黒崎知博著）
- ◇『現代免疫物語 beyond 免疫が挑む癌と難病』（岸本忠蔵・中島彰著）
- ◇『免疫と「病」の科学—万病のもと「慢性炎症」とは何か』（宮坂昌之・定岡恵著）
いずれも講談社ブルーバックス発行

第4号 今、読んでみたいお薦めの本、私の新型コロナウイルス雑感

- ◇『夏の花』（原民喜）、◇『方丈記』（鴨長明）、◇『「方丈記」私記』（堀田善衛）
- ◇『恍惚の人』（有吉佐和子）、◇『陽だまりの樹』（手塚治虫 小学館文庫）、
- ◇『回天の門』（藤沢周平）

第5号 「もののけ姫」の世界と里山の再生

- ◇『里山再生』（田中敦夫著 洋泉社）
- ◇『里山資本主義』（藻谷浩介・NHK広島取材班共著 角川新書）、

第6号 100年前に世界を襲った感染症「スペイン風邪」は、岸和田でも猛威をふるった

- ◇『岸和田高等学校の第一世紀』（岸和田高等学校百年史）
- ◇『朝日新聞に見る日本の歩み・第三編 屈折のデモクラシー（大正8年～10年）』（朝日新聞社）
- ◇『岸和田小学校史』（佐納秀雄著 1965年）

第7号 新型コロナウイルス感染症が重症化するメカニズム

- ◇参考資料：科学誌 NATURE 等で紹介された諸論文

第8号 実り豊かな「下山の時代」(その1)

- ◇『下山の思想』（五木寛之著 幻冬舎新書）
- ◇『定常型社会』、◇『ポスト資本主義』（いずれも広井良典著 岩波新書）

第9号 短歌・詩・俳句で語る「新たな日常」

- ◇「図書館友の会」の短歌・詩・俳句の各教室生の作品を紹介

第10号 実り豊かな「下山の時代」(その2) 「経済成長」っていったい何でしょう

- ◇『下山の思想』（五木寛之著 幻冬舎新書）
- ◇『経済成長神話の終わり』（アンドリュー・J・サター著 講談社現代新書）
- ◇『里山資本主義』（藻谷浩介・NHK広島取材班共著 角川新書）
- ◇『現代ブータンを知るための60章』【第2版】（平山修一著 明石書店）